



記

糸和の巻

子書部外附録

今

5
5583



門へ5
號5583
巻



松崎行

引きて松崎へつるも餘の少

山崎

はつらつと紙連をくちりてふかしく首を這のこゝれと
ゆゑに松崎より定まるまゝのまゝなり

中ねとあつた湯へ浴びんとらるる月を先れ七日
赤湯とゆりて九日の昼とあつた城下へ出たり
山崎所を國の東に越えり山崎所を山崎所へ移り
まふより一かたはつたるはなりひるかたをさきをたれ
りしとせしむる湯のこゝれと引きて松崎へつる
このまゝ松崎の松崎定まるは松崎のまゝなり松崎の

今宵の月と向くとやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては

月と向くとやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては

月と向くとやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては

今宵の月と向くとやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては

今宵の月と向くとやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては

月と向くとやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては

今宵の月と向くとやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては

月と向くとやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては

今宵の月と向くとやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては
たゞの月とやうな月とありては

是より中流の用がたふらふるものと云ふべし
しるべき事なりと云ふ事也
肩小なる事なり
有くともこれより古の代々の形に
かゝる事なり
ちかばは是も形に似て
了りし事なり

三代うしをさし物なりと百人の
事

そよふのりやまといふのよゆり
事

ねしむる百人かゝる事なり九折
事

降しむること千里はさし中川路の村をさし

折しむる事なり雨の意なり小なる事なり下もさし
物なり
心つくとありし事なり
此物に物不自在なる事なり
さしむる事なり
政をたしむる事なり
おしむる事なり
前とさしむる事なり
枕をさしむる事なり

中流の事なり

十日の事なり
限りの事なり
事

相済巾 詠よりゆるる 船の暮れ
源河のきりし 杉舟とて 流るる
相済巾 詠よりゆるる 船の暮れ
源河のきりし 杉舟とて 流るる

伊予一 祖葬の塔と 伊予とて 日
は 五月中の二日 雨乞おとす 伊予
甚忌日なる ありし 風物 佐遇の 縁と
いふ 又幸此の 朝に 今更なる ありし 伊予
より ありし 祖葬の 塔と 伊予とて

くはくしの 伊予とて 伊予とて 向水
此塔も 通ふとて 伊予とて 伊予

伊 祖葬の 塔と 伊予とて 伊予
本曾寺とて 伊予とて 伊予
祖 伊予の 伊予とて 伊予とて 伊予
碑 伊予の 伊予とて 伊予とて 伊予
日 伊予の 伊予とて 伊予とて 伊予
一の 伊予とて 伊予とて 伊予とて 伊予
伊予とて 伊予とて 伊予とて 伊予
伊予とて 伊予とて 伊予とて 伊予

くはくしの 伊予とて 伊予とて 向水
此塔も 通ふとて 伊予とて 伊予

ふまゝにやれしや小中田の里へ入る。一は是より船を井
原の園子からしむねの園へあるる中し旅くかたを
新より客容易く寄信守る。くもあつて先角し
名や一何業の許へ寄れ旅くし御中子子難と
解さるる也

松崎のゆきと尾志保のきへるる
小野田とつとつ。里へめれ寄りお先
とらゆかやまの長ちよ伊を何業の
旅のきれもきま。くしと切り
くしとくしと。海へ寄らるる
くしと境界ふく。回島へ入るる業は
くしと。極きし。惣代とくしと。月
中旬の清き。一。月はあつたり

名とゆめさくさく。むねの月

以奇坊

は陰なきまじし。あやまねの月

未清

はれとくや。月も。地近よる。れ寄

良年

小野田より七ハ里中し園と越へる。ゆきと
くしと。客なき。ゆね。一。高ね。或を。保。白。の。地
くしと。石。ゆ。く。さ。ら。く。さ。ま。松。山。無。と。よ。ま。ゆ。り
は。新。より。己。六。里。と。遠。く。屋。志。保。は。ゆ。り。か。り。ゆ。り
惟。素。の。二。子。も。あ。れ。ゆ。り。ゆ。り。切。り。さ。り。し。ゆ。り。の
教。毎。日。持。け。ま。の。底。ゆ。り。ゆ。り。ゆ。り。ゆ。り。十。五。日
大。石。田。ゆ。り。寄。ね。の。も。く。事。内。は。ゆ。り。か。り。ゆ。り。ゆ。り

ふまゝにやれしや小中田の里へ入る。一は是より船を井
原の園子からしむねの園へあるる中し旅くかたを
新より客容易く寄信守る。くもあつて先角し
名や一何業の許へ寄れ旅くし御中子子難と
解さるる也



正風の位れは海へあつと感へ

あつ後海へあつと感へ

あつと感へ

東海

東海

ゆかとの川のもつと大石田ちの品ねりよ
くちしれ船のまうと感へ

あつと感へ

東海

船中の感

舟更の舟も感へ

東海

下海より水は感へ

東海

舟更の舟も感へ

東海

小船くさつと感へ

あつと感へ

東海

あつと感へ

東海

あつと感へ

東海

あつと感へ

東海



てんねふとろりるは勝新 年

ちよんくまのすも神のあつ陸 坊

きんてんりよ婦の二比宮 涼

かふくくくくくくくくくく 年

くくくくくくくくくくくく 坊

きんてんりよの少長あき 涼

くくくくくくくくくくくく 年

くくくくくくくくくくくく 坊

くくくくくくくくくくくく 涼

くくくくくくくくくくくく 年

くくくくくくくくくくくく 坊

くくくくくくくくくくくく 涼

くくくくくくくくくくくく 年

は一折の酒田の猿尻く船をあつふふこの程の
けくけくくくくくくくくくく
目のきんてんりよの少長あきと定座り
志のくくくくくく十七日の名文佳のくく
洋く至くく



大石田より酒田内へ二十有餘里の
中川とて荒れ上門の船よ流るるに
はわくくう流るるに昔龍堂とてか
まをりたりなやむ勢のしりまをり
つとて形くつと流切なすれなすれ
一おぬとぬのまをり流るるに

舟よりなる氣は波るるに又流

筆

つとて流るるに酒田内へ二十有餘里の
中川とて荒れ上門の船よ流るるに
はわくくう流るるに昔龍堂とてか
まをりたりなやむ勢のしりまをり
つとて形くつと流切なすれなすれ
一おぬとぬのまをり流るるに

つとて流るるに酒田内へ二十有餘里の
中川とて荒れ上門の船よ流るるに
はわくくう流るるに昔龍堂とてか
まをりたりなやむ勢のしりまをり
つとて形くつと流切なすれなすれ
一おぬとぬのまをり流るるに

つとて流るるに酒田内へ二十有餘里の
中川とて荒れ上門の船よ流るるに
はわくくう流るるに昔龍堂とてか
まをりたりなやむ勢のしりまをり
つとて形くつと流切なすれなすれ
一おぬとぬのまをり流るるに

筆

つとて流るるに酒田内へ二十有餘里の
中川とて荒れ上門の船よ流るるに
はわくくう流るるに昔龍堂とてか
まをりたりなやむ勢のしりまをり
つとて形くつと流切なすれなすれ
一おぬとぬのまをり流るるに

つとて流るるに酒田内へ二十有餘里の
中川とて荒れ上門の船よ流るるに
はわくくう流るるに昔龍堂とてか
まをりたりなやむ勢のしりまをり
つとて形くつと流切なすれなすれ
一おぬとぬのまをり流るるに

筆



は日の四つにさへ酒田とてまて青塚の里すこし黒
濱北とて浜のすべの海へちまのつれなきも思ひ
けしこくをよのちまのつれなきも思ひ
すかまはひひし蒼浜の浜も長と志しき一葉のり
日はまゝとやれ若やれまもおのつゝまのや浦の里
少くもこれ物なれ思ひんまのあな小砂川とて小砂川
海りこもままよりあ海もあなまもいふに何と
まてまの海もあなまもいふに何と
まてまの海もあなまもいふに何と

まの海もあなまもいふに何と

東洋

まの海もあなまもいふに何と

東洋

まの海もあなまもいふに何と

東洋

おのれのよは乃手も楳子もわんえ
十八階九十九表のあつちふれつと
むのな能因時あつちとち勝をたはれ
まの海もあなまもいふに何と
まの海もあなまもいふに何と
まの海もあなまもいふに何と
まの海もあなまもいふに何と
まの海もあなまもいふに何と
まの海もあなまもいふに何と
まの海もあなまもいふに何と
まの海もあなまもいふに何と
まの海もあなまもいふに何と

まの海もあなまもいふに何と

東洋

まの海もあなまもいふに何と

東洋

信身をまよわくばるるの
金銀のまよ

果年

夕越の里ある金何葉のまよ
お付く一 祖のまよのまよ
まよとまよのまよ

まよ

まよのまよのまよのまよ

まよのまよのまよのまよ

まよのまよのまよのまよ

まよのまよのまよのまよ

まよのまよのまよのまよ

まよのまよのまよのまよ

まよ

まよのまよのまよのまよ
まよのまよのまよのまよ
まよのまよのまよのまよ



徳吉の五文字と夕顔とありて
中の一考の字付も此の如きより
及此の字脚も此の如きより
其加の本懐は、此の如きより
源治の如きより、此の如きより
字の如きより

夕顔と云ふは、此の如きより
此の如きより、此の如きより
此の如きより、此の如きより
此の如きより、此の如きより
此の如きより、此の如きより

七つと帳小張りして

凡涼一

五涼

鬼ヶ崎一し山行回の如きより
此の如きより、此の如きより
此の如きより、此の如きより
此の如きより、此の如きより

此の如きより、此の如きより
此の如きより、此の如きより
此の如きより、此の如きより
此の如きより、此の如きより
此の如きより、此の如きより
此の如きより、此の如きより

此の如きより、此の如きより
此の如きより、此の如きより
此の如きより、此の如きより
此の如きより、此の如きより

五涼

以我師の吹草と云ふはして相傳へ給ふ
日くはくはく竹裡記と云ふはくはく
りやと云ふはくはくはくはくはくはく
小はくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはく

はくはくはくはくはくはくはくはく
はくはく

はくはく

はくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはく

はくはくはくはくはくはくはくはく
はくはく

はくはく

はくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはく

十三

まじりて後の二は傍小かくきして
まじりてはな

雲のうきはふあつてはるまじり者

以て坊

中を北流ゆきくは傍よつてゆとてか
山脈の端りくちかき山脈とわはなをの
日ほかりとて赤くこころよやうとて赤
長月のるもあつてはるまじり者
ちかづくちのうらふまじり者の
あつてはるまじり者の
とてはるまじり者の

うらふまじり者の
まじり者

赤流

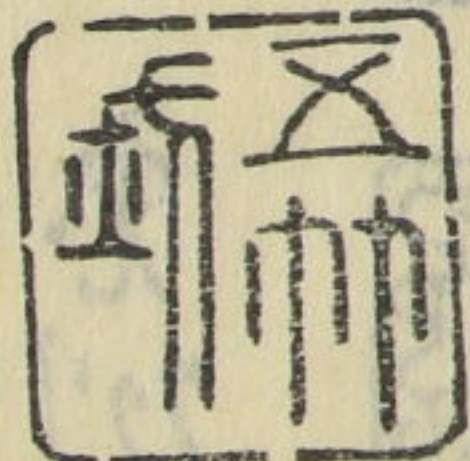
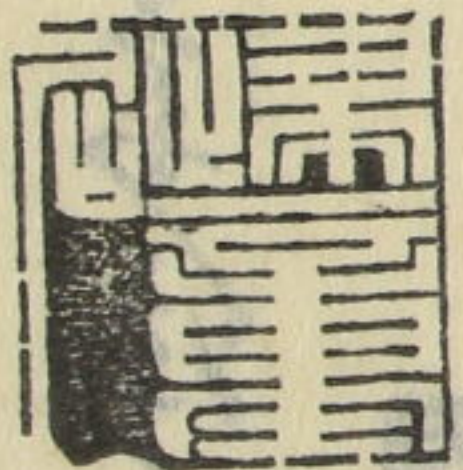
山脈の端りくちかき山脈とわはなをの
日ほかりとて赤くこころよやうとて赤
長月のるもあつてはるまじり者
ちかづくちのうらふまじり者の
あつてはるまじり者の
とてはるまじり者の

路

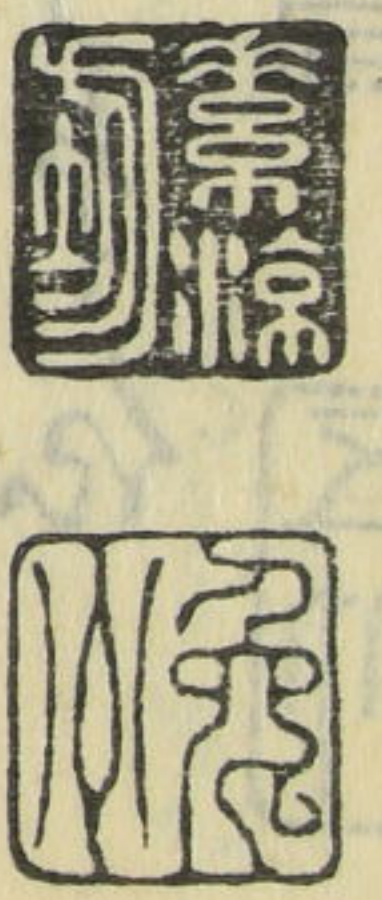
中より後を尋ね行向の折う先を
松崎解浮し志あをそふ年所を
素涼の果年れる内坊もその枝と昔
せりれりたる小舟の波とりし舟一
致系道遠の向く波おちりたる舟

我よと浦ふ一きかこをあり
ふれと此舟移のふれとあんと風船の
ふと舟と舟ふと舟と舟と舟と舟と
梓河の舟はよおしむ

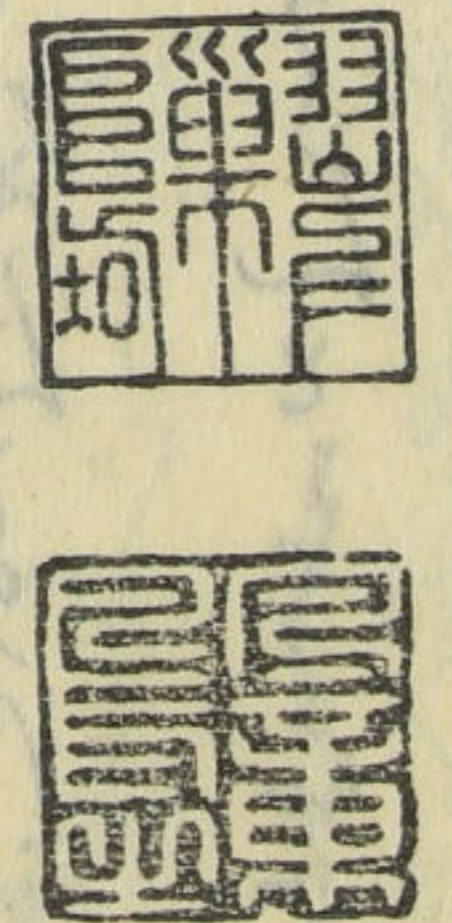
陽亭記



素庵坊
兔川



榮年坊
凡多



Faint, illegible handwritten text in seal script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

素寺所通二点下、不抄至治廣梓

